



PHOTO : YOSHIRO HIGAI

## スノーボーダーが、スノーシューに求めるもの

ハイファイブマウンテンワークスの沼野健補さんは、尾瀬や上越国境を中心に、四季を通して自然の中で遊ぶ楽しさを伝えています。春と秋はトレッキングや登山、夏は湖でのSUP、そして冬はスノーボード。ハイクアップが必要となるバックカントリースノーボードには、スノーシューが欠かせません。より上質な雪と斜面を求めて山に登るスノーボーダーは、スノーシューに何を求めているのでしょうか？

### — デナリがフィールドを広げてくれた —

**初**めて履いたスノーシューは、アルミのフレームに柔らかいデッキを張ったタイプでした。雪が積もった畑を歩きましたが、ホッピングシューズみたいだなと思ったことを覚えています。

それを履いて谷川岳に登ったんですが、目指した場所まで

は行かずに、危なくて途中で引き返しました。かかとの部分に爪が付いていましたが、それだけだと硬い斜面は登れませんでした。かかるとに体重が乗っていないと滑ってしまうんです。いま考えれば、山岳向けのモデルではなかったということですが、当時は他に選択肢もありませんでした。

スノーボーダーは、柔らかい雪がある吹きだまりや沢状の地形を狙っていくので、アプローチでは風上の（新雪が

吹き飛ばされた）硬いところを歩くことが多くなります。そういう場所をトラバースしたり、直登したりするときには、浮力だけでなく、アイゼンのようなグリップも必要になります。浮力とグリップ力のバランスが大切なんです。

ですから、初めてデナリを履いたときは、「これはすごいのが出たなあ、これで（やりたかったスノーボーディングが）始まったなあ」と思いました。レール状の刃がしっかりと斜面を捉えてくれるので、硬く締まった急斜面のトラバースも横滑りせずに怖くありませんでした。行きたい場所に、安全にアプローチできるようになったんです。テレベーターは、それまでのスノーシューにはない機能でした。使ってみたら、「こりゃあ楽だ」と。恩恵は絶大でしたね。

### — バックカントリースノーボードをするなら —

**今**はライトニングシリーズを山によって使い分けています。メインで使っているのはエクスプローラー。ラチェット式のバインディングは、とにかくスピーディに着脱できるので気に入っています。よりシビアな山に行くときはアッセント。甲を締めるストラップが3本なのでしっかり固定できますし、バインディングの構造がシンプルなので、万一ストラップが切れたりしても、予備さえ持っていれば、現場ですぐに交換できます。また、滑走時にスノーシューを背負うときにもかさばりません。

ライトニングを初めて履いたのは、2005年だったと思います。新しいものは、1シーズンは様子を見ることにしているので（笑）。実際に履いてみると、斜面に吸い付くような感じがして驚きました。それまでデナリは完璧だと思っていましたが、デナリよりも歩くのが楽でした。

デナリできつく感じるような急斜面のトラバースでもまったくズレない。ライトニングのフレームは、トラバースでねじれるんです。まっすぐ立っていてもデッキがしなって雪面を捉えてくれる。面がピタッと合うような、いままでにない感覚でした。2本のクロスメンバーも効いています。急斜面でも、かかどがしっかり止まってくれて、横滑りしません。スノーボードをするために雪山に登るなら、これがベストの選択だと思っています。

ガイド/スノーボーダー  
**沼野 健補**

今季から丸沼高原のペンション街に拠点を移し、より深く地域に根ざしたガイド活動を計画している。  
[www.highfive-mountainworks.com](http://www.highfive-mountainworks.com)

